

# 西中だより

平成27年度 No.22  
平成27年12月18日  
須賀川市立西袋中学校  
発行責任者 鶴巻 弘士

&&& 今年を振り返り、夢と希望が溢れる申年へ &&&

- あっという間に平成27年が過ぎ去ろうとしています。4月に歴史と伝統のある西袋中学校に赴任して9カ月が過ぎました。その間、様々な教育活動が展開され、生徒達は活躍し輝かしい足跡を残しました。それらを振り返りながら、来年へ向けた希望を胸に抱いて今年を締めくくりたいと考えます。

～主に、西中だよりNo.1からNo.21で取りあげた内容から～

- 【春】歴史と伝統のある西袋中に赴任、生徒達や先生方と一期一会の出会い、学級役員（委員長、副委員長）決まる、修学旅行（鎌倉・横浜・東京）、PTA総会（PTA役員・体文役員決定）、支部陸上大会で男女共に400mリレー優勝、他にも多数優勝、支部総合大会で多数の部で入賞、美術部員牡丹絵画展に多数入賞、夏休みを前に第1回PTA親子奉仕作業
- 【夏】校内陸上大会で西中生のパワー全開、校地内の除染作業開始、校内美化コンクール、生徒会新聞「威風堂堂」で生徒会改革、特設陸上・駅伝部が朝練習に精を出す、吹奏楽部・特設合唱部の練習に熱が入る、各種大会で活躍（東北軟式野球岩瀬支部大会、通信陸上福島県大会、バレー夏季大会、など）
- 【秋】特設合唱部TBCこども音楽コンクールで東北大会、地区英語弁論大会で入賞、ジュニアオリンピックで全国大会出場、ふくしまデザインコンテストに多数入賞、生徒会役員決まる、いのちの大切さを学ぶ（岡崎照子様講演）、県南新人陸上大会で多数入賞、新人総合体育大会でバレー・サッカー2位、第2回PTA親子奉仕作業、岩瀬地区合奏コンクール銀賞、駅伝大会惜しくも4位、円谷幸吉メモリアルマラソン兼中体連岩瀬支部新人ロードレース大会で1・2年生総合優勝、読書感想文・家族の健康作文コンクールで多数入賞、生徒のエネルギーが爆発した文化祭、
- 【冬】松明づくり始まる、落ち葉掃き開始、岩瀬地区書写コンクールに多数入賞、夜空を紅く焦がした松明あかし、ジュニアボランティア養成講座閉講式・・・現在も生徒達は様々な大会やコンクール等に挑戦しています。日々の努力を無駄にせず、新たなことに積極的にチャレンジして欲しいものです。

《 校長のつぶやき 》・・・1年を締める話として「NHKBS奇跡のレッスン（バレーボール）」より・・・

- 12月13日（日）午後8時頃、何気なく点けたテレビを観て驚いた。現在のブラジルバレーボール代表選手の多くをジュニア時代に指導したアントニオ・マルコス・レルバッシ（愛称：マルキーニョス）氏が男子中学生のバレーボール部員に指導をしていました。
- ー 内容の要点を氏の指導に用いた言葉を基に紹介したい。ー
- ・チームワークについて：①互いにボールをパスし合う。床に落とさずに5分間。これができればチームワークが育つ。つまり、「絶対に落とさない、相手が受けやすいようにボールを返す、乱れたら素早く動いてボールを拾う」といった「仲間への思いやり」が育つ。（目で見える思いやりの姿の一例）
- ②「背が低いチームでもブロックを決めることができる。」では、どうやるか。「回転して跳ぶ、腕を大きく振って跳ぶ」・・・しばらく、練習。そして、「実際、練習試合ではチームで一番背の低いセッターの選手が相手エースのスパイクをブロックした。」このように「目標を掲げて挑戦すること（ベストを尽くすこと）」がチームワークです。 ・右下の図は、マルキーニョス氏が、試合中に選手に与えたアドバイスを、試合後に氏が図にしたものである。この図を使って、選手に試合の振り返りをさせていた。③チームや個人がネガティブな状態では、本来の力が発揮できずに試合では負ける。その反対が、ポジティブな状態である。どうすればポジティブな状態になれるのか。それは「感情を豊かにして、集中力を高めることである」と氏は説いた。つまり、④感情が無くなるのは相手への恐怖心や自分自身への不安である。そのような時、最も効果的なのが「大きな声を出すこと」である。「腹の底から大きな声で叫ぶこと」である。試合前、プラス思考で大きな声で叫ぶのはプロの選手もやっていることである。
- 部活動記録を読ませてもらうと、どの部でも決まって「声が出ていない」「声を出そう」というのが目標になっている。これでは日頃の練習がネガティブ（消極的）な状態で行われていることになる。もつと皆で声を出し合い、集中力を高めながらポジティブ（積極的）な状態で練習してはどうだろうか。

